

上宮人として成長・完成するためのルーブリック

☆☆☆ 校訓、「正思明行」を受け継ぐために ☆☆☆

学順	領域	成長の物差し				
		5	4	3	2	1
掃除	清	自教室だけでなく、廊下等の公の場所でも自主的にゴミを拾うなどの清掃活動ができる。	教室の清掃活動に積極的に取り組むことができる。	教室の清掃活動をこなすことができる。	教室の清掃活動をさぼってしまうことがある。	教室の清掃活動をまったくしない。
	整	自教室以外でも、校内設備等の使用について公共の精神をもち、適切な行動ができる。	身辺だけではなく、教室内でも整頓ができる。	身辺の整頓ができ、授業の準備を怠ることがない。	身辺の整頓ができる。	身辺の整頓ができず、机や机の周りが散らかっている。
	心	自分の感情や気分によらず、困っている人に手を差し伸べる事が出来る。	誰に対しても、思いやることができる。	自分の友人に対して思いやることができる。	自分の考えがあるが、自己中心的になってしまう。	自分の考えがなく、周りにながされていく。
勤行	礼	笑顔をもって挨拶やマナーある行動がとれ、他者に好感を与える。	挨拶も積極的に行い、マナー等の礼儀も常に守っている。	挨拶やマナーなどもしっかりと出来る様に努力しているが、出来ない時もある。	挨拶やマナー等、礼儀に関してはあまり出来ない。	挨拶は出来ず、マナー等の礼儀を守ることはしない。
	徳	校則や社会のルール等に関する規範意識が高く、人望が厚い。	校則や社会のルール等の規範意識を持ち、ほとんど違反することが無い。	校則や社会のルール等、守らなければならないことは理解しているが、違反もする。	校則や社会のルール等の規範意識は低く、あまり守ることもしない。	校則や社会のルール等は守る気もなく、自分勝手である。
	行	皆勤を維持し、学級活動や学校活動において責任感のある行動ができ、他の生徒の模範となる。	精勤を維持し、学級活動や学校生活において、皆と一緒に行動をする。	遅刻や早退、欠席をあまりせず、学級活動や学校生活にとりあえず参加をしている。	遅刻や早退、欠席が多く、学級活動や学校生活にもあまり参加をしない。	怠け心より、無断欠席等が多く、学級活動や学校生活には参加をする気がない。
学問	志	世の中のためになるような大志を抱いており、着実に実現に向かって進んでいる。周囲からもその大志を実現することを期待し応援されている。	実現させたい夢や目的があり、志を持っている。意欲と現実的な方法手段が飛躍し空回りするところもあり、より着実な情報収集と実践が求められる。	人生の夢が単なる夢に終わらせることなく、実現に向けて志を持ち、少しずつ前進することの大切さを理解している。志が芽生えつつある段階。	人生には夢や目的が必要で、その実現に向けて志を立てるべきであると分かってはいる。しかし、具体的な行動を起こしてはいない。	過去にも未来にも関心を払わない。人生における夢や目的にも無関心で、日々、気ままな生活をしている。
	学	学業達成に向けて努力し、強い義務感がある。実践に移す努力を惜しまず、創意工夫が見られ能動的な学習態度を継続している。	学業達成に向けて努力し、強い義務感がある。実践に移す努力を払うものの、創意工夫が足りず受動的な学習態度の域を出ない。	学業達成に向けて、努力することが重要であることは理解しており義務感があるが、実践に移す努力を怠っているため、受動的な学習態度である。	学業達成に向けて、努力することが重要であることは理解しているが、義務感は希薄で、学業を怠ることが多い。	学習する目的が自覚できずにいて、学習する義務感も感じず、学業を怠っている。
	智	自分が何のために生きるのか、何のために勉強するのかを明確な職業と進路との関係で説明ができ、人生を生きるための智へと昇華しつつある。	自分が何のために生きるのか、何のために勉強するのかを量的質的にとらえており、将来的に自らに役立つものとしておぼろげな目標を持っている。	自分が何のために生きるのか、何のために勉強するのかが明確でなく、量的質的な部分を漠然ととらえている。学業と人生の関係が明確でない。	自分が何のために生きるのか、何のために勉強するのかを結びつけることはしない。一夜漬けのようなその場しのぎの勉強に終始し実力が身につかない。	自分が何のために生きるのか、何のために勉強するのかを考えたりはしない。点数には一喜一憂するものの自分との関係性は希薄である。